

# 農業の新しい技術

No.555 (平成17年8月)  
分類コード 01-09  
熊本県農政部

## カンキツ新品種「肥のあすか」の特性

農業研究センター 果樹研究所 常緑果樹研究室  
担当者：坂西 英

### 研究のねらい

11月から出荷が始まる本県産「興津早生」は、成熟期に達していないことから、着色・食味不足が指摘されている。このため、11月上旬に完全着色し、高品質で食味が良く、栽培しやすい早生温州を育成する。

### 研究の成果

#### < 来 歴 >

「肥のあすか」は、1981年に「肥後早生」を種子親に「ミネオラ」を交配し、胚分離・培養を行って育成した珠心胚実生変異である。本系統の特徴は以下のとおりである。

#### < 特 性 >

1. 樹姿は中間型で、樹勢はやや強い(表1)。
2. 葉の大きさ、春梢の長さは、「興津早生」と同様であるが、トゲが若干発生する(表1)。
3. 果実形態は「興津早生」と同様であるが、果汁成分は糖度は同程度で、クエン酸がやや低い。また、じょうのう膜が薄く食味は良好である(表2)。
4. 着色は「興津早生」より1週間程度早く、果皮色が濃い(表2、図1)。

以上のことから、「肥のあすか」は、着色が早く、食味が良いため11月上旬から出荷可能で、「興津早生」と同様に樹勢が強いため、栽培しやすい早生温州として期待できる。

### 普及上の留意点

1. 「肥のあすか」は、県内の温州ミカン栽培地域において、温暖で日照条件が良く排水良好な園に適する。
2. 結果期に至るまで、葉数を確保し、適正な樹勢を維持することが必要である。
3. ウイルス・ウイロイド対策として、高接ぎ樹からの穂木採取は行わない。
4. 既存早生温州の更新用とし、平成22年に栽培面積150haを目標に産地化をすすめる。

[ 具体的データ ]

表1 「肥のあすか」の樹体、葉、枝梢の形態 (2001年)

品種名	樹姿	樹勢	春葉				春梢			
			葉身長	葉幅	葉柄長	葉面積	基部径	長さ	節間長	トゲ <sup>a)</sup> 数
			cm	cm	cm	cm <sup>2</sup>	mm	cm	cm	本
肥のあすか	中間	やや強	10.1	4.3	1.69	28.5	3.9	16.8	1.9	0.43
興津早生	中間	やや強	10.4	4.3	1.68	28.5	3.7	17.2	1.8	0.00

注) a) トゲ数は春梢1本あたりのトゲの本数。

表2 「肥のあすか」の果実形態及び果汁成分

品種名	平均果重	果実横径	果形指数	果肉歩合	果皮		果汁成分	
					着色歩合	果皮色 <sup>a)</sup>	糖度(Brix)	クエン酸含量
	g	cm		%	分			g/100ml
肥のあすか	122.3	6.8	126	80.7	9.8	7.1	11.2	0.81
興津早生	119.6	6.4	125	81.3	9.4	6.6	11.5	0.83

注) 調査日は2001, 2003, 2004年の11月1日時点。シートマルチを8月中旬に実施。

a) 旧農林水産省果樹試験場作成のカラーチャートを用い、果頂部の最も着色が進んでいる位置を測定。

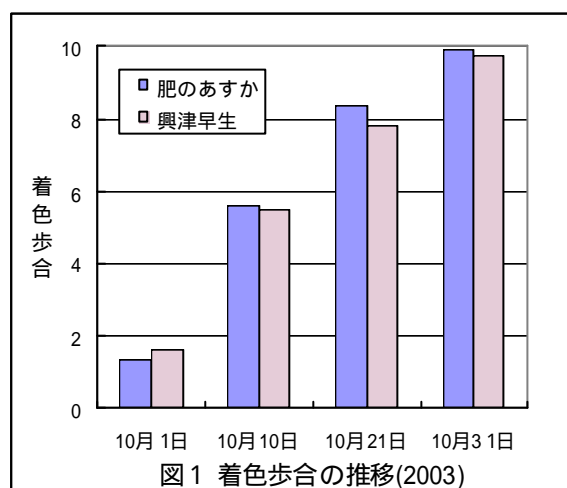


写真1 「肥のあすか」の着果状況



写真2 「肥のあすか」果実5方向